

予

Araki

Japanese Basic Strategy (Hattori)

(一) 日本の基本戦略 (服部案)

日本は日露戦争以後東洋に於ける平和安定の維持を以て其の根本國策となし來つた關係上軍備の對稱も亦自國を中心とする東洋の防衛に限定せられ作戰計畫及軍備構成の主眼は對蘇、對米防衛戦争に基くものであつた。

而して平時準備として陸軍が對蘇作戰準備に偏重し海軍が西太平洋に於ける邀撃作戰準備に専念し來つたことは作戰計畫の内容、教育訓練の實體及軍艦、飛行機の性能等より觀て明かなことであり之は陸海軍兵力量の關係上止むを得ざる所であつた。然るに滿洲事變、支那事變の繼續及三國同盟の成立等に關聯して日本に關する國際狀勢は一九四〇年末頃より頗る複雑機微を加へ第二次歐洲戦争の進展特に獨蘇の開戦及日米外交交渉の澁滞を見たる一九四一年夏には更に情勢の急迫を痛感せしむるに至り此の頃になつて始めて日本は前項に述べた内外諸情勢の下に於て從來考へなかつた對米英支蘭の對四國戦争に關する作

戰計畫を急速に策定しなければならぬこととなつたのである。^二

太平洋戦争に於ける日本の基本戦略としては其の国力、戦力上敵國本土に對する進攻は不可能なるが故に其の自存自衛の爲に必要なる地域を攻略占領して此に持久戦態勢を蓋へ長期持久戦の遂行と三國同盟の活用とに依り最終の勝利を遂得せんことを企圖したものである。

以下此の基本戦略の根幹をなす所の

A 豫想せらるゝ聯合軍の戦略

B 持久戦の基盤をなす攻略地域の決定

C 攻略作戦の構想

D 開戦時期の選定

E 持久戦の觀察

F 太平洋戦争と蘇文との關係に關する考察
に關し述べることにする。

一、豫想せらるゝ聯合軍の戦略

聯合國は相互の提携を緊密にしつゝ日本の進攻防止に努め止むを得ず戦争となつた場合に於ては概ね次の戦略を採らんとして居るものと豫想して居た。

一 米英蘇並に其の他中立國との密接なる共同連繫の下に日本の政治的孤立を圖ると共に蔣政權を支援強化し日本の國力を大陸に牽制膠着せしめる。

二 比島及新嘉坡方面に航空及海上兵力を増派して日本の南方進撃を阻止反撃するに努め其の推移に應じて米國主力艦隊は渡洋進撃の方途に出づることあり得べく從つて海上決戦生起の算はなしとしない。

又日本の南方作戦遂行を極力遅延せしめて成るべく永く南方要域を確保し爾後の作戦の自由を保持すると共に航空並に海軍に依る「ゲリラ」戦に依つて海上の交通破壊を圖り日本の國防態勢確立

を阻止する之が爲

A 新嘉坡、比島の要域を成るべく永く確保する。

B 南方の重要資源を日本の手に入らしめないう様に努める。

3 作戦の推移並に軍備充實の整備に伴ひ海上決戦を豫期しつつ、空海陸軍を擧げて進攻作戦に轉ずる。

4 進攻路は「ソロモン」「ニューギニア」方面よりする南方航路の公算最も大にして日本委任統治領方面よりする中央航路之に次ぎ「アリューシャン」方面よりする北方航路は天象の制扼を受け其の算は少い

尤も南方作戦の緒戦段階に於て積極作戦に轉ずるやうな場合は中央航路の算大なることを豫期する必要がある

5 短期決戦に轉じ得ない場合は米英は先づ日本の疲勞困憊を目途として航空及潜水艦に依る奇襲並に後方攪亂を企圖すると共に豪印其の他南存極東要地との交通確保に努め成るべく速に有利なる對

日戦力比率の把持に邁進する。

6 英國は當面の對獨戰遂行に主戦力を投入せざるを得ないと思はれるから對日戦には大なる力を遣き得まい
米國が日本又は獨伊何れに主戦力を投入するかに就ては豫斷を許さないものがある

7 米英は蘇聯をして北方より日本を牽制せしめ爲し得れば其の對日參戰の實現に努力するであらう。

二 攻略範域の決定

太平洋戦争生起の場合我が攻略範域を如何に決定するかといふことは極めて重要な問題であつた此の戦争の原因が經濟壓迫に對する我が自存權の獲得にある以上先づ第一に「ジャワ」「スマトラ」「ボルネオ」「マレ」等の資源地帯を領有しなければならぬ第二には戰略的要求から米英の重要軍事基地たる「シンガポール」「マニラ」香港、瓦無等を奪取して極東から敵國勢力を一掃すると共に攻略地

域の保有する戦略的地位が爾後の長期に亘る海洋持久作戰に適合し
 なければならぬ、而して第三に此の地域の廣茫が我が國力、就中
 我が陸、海、空の兵力上よりする考察に於て我が實力下に包容し得
 るものたるを要し且此の地域内に在る開戦時の敵の兵力が我が進攻
 作戰を許す程度に我が優勢を保持し得るものでなければならぬ。
 以上數箇の條件を檢討の結果我が攻略領域を概ね緬甸「マレー」「ジャ
 ワ」「スマトラ」「ボルネオ」「セレベス」比島、互無及香港を以
 て包圍する地域に定め此の地域は以前より既に我が勢力權内に在る
 「マドニヤル」群島以西の南洋諸島と相俟ち米英に對して戰略持久
 をなし得るものと考へたのである
 又「ラバウル」方面は我が重要海軍根據地となるべき「トラツク」
 島保護の目的から小兵力を以て要點を占領することとし「ニューギ
 ニヤ」は必ずしも之を攻略領域に包含するものとは豫期して居らな
 かつた

以上の地域は開戦後の第一段攻略作戰に於て豫定通り攻略したので
 あるが其の後之を戦略的に補強する意味に於て外郭要地に對する作
 戰として若干の要地を攻略し又米軍の攻勢に關聯して「ソロモン」
 「ニューギニヤ」方面に於ては大なる兵力を以て占領地域を大幅に
 擴大するに至つた

三 攻略作戰の構想

一九四一年夏秋に於ける日本の兵力中南方作戰に使用し得る兵力は
 海軍は聯合艦隊（海軍航空兵力の主力を含む）の殆んど全力であつ
 たが陸軍は其の主力を支那作戰に充當し又有力なる一部を以て、對
 蘇防衛兵力として滿洲に配置するを要したので僅かに師團十一箇、
 航空兵力約七百機程度以上に出づることとは不可能な状態であり又陸
 海軍の作戰に充當し得る船舶の限度は合計約三百九十萬噸であつた
 以上の兵力を以て前項に述べた南方攻略領域即ち東西南北各約二千
 哩に亘る地域の攻略作戰を終始する爲に日本大本營は如何なる點に

成算を求めたのであらうか。

八

當時此の豫想作戰地に在つた英米蘭の兵力は總計陸軍約三十七萬、飛行機約七百機、海軍は布哇、印度洋方面を合し戰艦、航空母艦各七隻内外を基幹とするものであり同年九月頃迄に得た軍事情報に依り各地區毎に仔細に研究の結果陸上兵力の主力は植民地軍隊に屬し其の素質概ね劣弱であつて我にして重點的に兵力を集中使用するに於ては攻略作戰間各地區とも常に約二倍乃至三倍の優勢を以て攻略作戰を終始し得るの目途を得海上作戰や上陸作戰に幾多困難なる問題にあつたけれども大体に於て十分なる自信を以て成功に導き得るものと信ぜられ一應比島は五十日、馬來は百日、蘭印は百五十日即ち約五箇月を以て大部の攻略作戰を終るものと想定して居たのである。

此の際最も懸念せられた問題は太平洋方面からする米國艦隊の出撃であり、之に對しては眞珠灣の奇襲作戰を執行することに依り南方

に於て海上權の優位を保持し得るものと考へたのである實に此の奇襲作戰自体は大なる冒險であるが之が南方攻略作戰を成功せしむる鍵ともなるべき重要な價值を有したのである。

必ずしも十分とは申し難き陸海空の兵力を以て常に局部的優勢を保持しつつ南方の諸地域を攻撃するが爲に如何なる順序と如何なる兵力配分を以て作戰を遂行するを可とするやといふことに就ては此の如き大海洋作戰が戰史的にも殆んど例のないことで異常なる努力を以て研究を重ねたのであるが比島、蘭印「マレー」の順序に時計の針の動く方向に攻略すべきや或は其の反對に「マレー」蘭印、比島の順序に攻撃を進捗せしむるを有利とするやが研究の一課題であつた、種々検討の結果最大限に奇襲の效果を獲得し敵をして對應準備の暇なからしむるを要すとの結論から比島、馬來及眞珠灣の同時攻撃をなすことに決定して之に應ずる兵力の配分を行つたのである。

各地區に對する攻撃作戰に於て最も困難な問題は「マレー」方面の

英軍航空兵力が比較的優勢なる状況に於て馬來上陸作戰が戰闘機の活動限度たる約三百哩を隔つる南部佛印の我が航空基地の援護のみに依り成功を期待し得るやといふ問題と「ジャワ」「スマトラ」に對する攻撃が「ボルネオ」「マレー」等の占領した許りの我が基地に依る航空活動に依り十分なる成果を収め得るや特に油田地帯を大なる損害を蒙ることなく攻略し得るやと云ふ問題とであつた、此の二つの問題は開戦直前まで解決し得ない困難なる問題であつたが前者は馬來作戰に任じた第〇〇艦隊司令長官の艦隊は損害を意とすることなく萬難を排して陸軍作戰に協力すると云ふ確固たる決意と南部佛印の基地航空部隊の全滅をも辭せざる戦意とに依り解決を見ることが出來後者は「パレンバン」に對する航空挺進作戰の採用と「ボルネオ」「マレー」に對する適切な航空基地の推進計畫の策定に依り解決したのである。

右の問題は共に航空兵力の運用に關する事項であり之は我が航空母

艦の全力を眞珠灣方面に使用しなければならなかつたことから起つた當然の結果である。

此の如く攻略作戰に於ては馬來作戰の成否が綜合作戰の成功を左右することとなつたので此の作戰に充當する陸海空の兵力は量に於ても質に於ても最も慎重なる配慮に依り選定せられ比島作戰の如きは兵力上若干の犠牲を忍ばねばならなかつた又陸軍兵力の充分ならざる點を補ふと共に船舶の經濟的使用をなす爲此等の二重使用に着意し比島、香港、瓦無、馬來等の作戰に任じた陸軍兵力の一部又は大部及船舶は爾後更に他方面の作戰に充當し又緬甸作戰は爾他方面の作戰進捗後轉用兵力を以て遂行することに決定を見たのである。

開戦時期の選定

一九四一年春以來日本政府は日米交渉の推移を見守りつゝ漸次開戦の場合あるべきを豫察するに至り大本營亦逐次作戰準備を進めつゝあつたのであるが同年十月より十一月に亘る期間に於ては万一の場

合に於ける開戦時期の選定に關しても研究を進めなければならぬ事態となつた。

劣勢兵力を以てする對敵國戦争に於ては開戦初動に於ける奇襲作戰の効果を最大限に發揚することが初期の攻略作戰の爲のみならず爾後の持久戰の爲兵力上の「バランス」を得るに絶對に必要なことであつたので日本大本營としては戦争其のものは政略上の受動に依り生起するものであるが戰術的には先制の利を獲得するにあらざれば基本戰略の構想は到底成立し得ないことを強く信じて居たのである。當時つて開戦時期の選定は之が爲の一重要要素であつたのである、當時の研究に於て開戦時期選定の要件として大体左の諸件を考慮して居た。

A 時日の遅延と共に日本軍備の比率特に艦艇及航空勢力の整備は急速に増大し一九四二年三月以降に於ては作戰成功の目途を失ふに至る

B 蘇聯邦が日本に對し攻勢を執ることあるべき最悪の事態を考慮し南北兩面同時作戰の生起を避くる爲に北方に於ける作戰不遂の期たる冬季間に於て南方攻略作戰を終了することを希望する

C 比島、「マレー」等の米英側の戰備は急速に進歩中であり又米蘭支の共同防衛關係は益々緊密となりつゝある狀況に於ては開戦は早きを有利とする

D 眞珠灣攻撃の爲艦隊が大國「コース」を執るものとして海洋の狀況は一月以降は益々不利である

E 「マレー」に於ける風波の狀態は季節的に一月、二月は不利である

F 航空作戰並に上陸作戰を容易ならしむる爲下弦の月を利用し得る日を選定するを要する

G 奇襲作戰を成功せしむる爲土曜日、日曜日を選定するを有利とする

以上の諸條件を充す爲に開戦期日を先づ十二月初頭と豫定して諸準備を整へ日本政府として開戦を決定した十二月一日に至り武力戦の行動を十二月八日と確定したのである。

一四

三 持久戦の觀察

日本が欧戦作戦に依つて豫定攻略地域を占領確保したものと假定して爾後長期に亘る持久作戦に邁へ得るやといふことに就ては第一に戦略的考察即ち主として米國の海洋方面よりする反攻並英國の印緬方面よりする反撃に對し持久戦遂行の可能性ありやといふ問題と第二に此の持久戦期間日本の經濟特に其の物的實力か之を支へ得るやといふ問題との檢討が其の主要な要素であつて當時の觀察は大体次の通りである

一 戦略的考察

太平洋に於ける海洋作戦の主体をなすものは當然航空兵力並海上兵力である日本が緒戦に於て敵に對し極速に近き打撃を與へ得たる場合開戦前に於ける米日の十對七、五の艦隊比率は一時的に我に相當有利なものとなり我艦隊にして大なる打撃を受けざる限り概ね二年間は不利ならざる戦力を持続することか出来るであらう

一五

一六
 決定攻略戰取後に於ける地形的觀察よりすれば此の地域の外
 邦は太平洋に於て戦略上の要線を描し「ソロモン」より「ニューギ
 ニヤ」を以て比島に近する線以外は相當距離の海洋を距てる

上戦路防禦を策するに有利である

此の際日本軍は此の持久戦域に配置する雲地航空兵力と艦隊特に
 其の母艦兵力との協同に依り有利なる條件の下に防務作戰を遂行
 することか可能である又補給方面より大陸に指向せらるゝこと
 るへは英軍の反撃に就しては有利なる地形の利用と必要に應じ兵
 力を増加することに依り情況不利なる場合に於ても長期持久戦は
 可能なるものと考へられて居た

攻略作戦終了に伴ひ陸海軍ともに兵力を整備し特に南方戦場のみ
 ならず支那、南洋、内地を達し全般的兵力の整備を行ひ海軍戦力
 を保有して爾後の持久戦態を遂へることか必要である
 かくして如何なる場合に於ても二年間の作戦遂行に對しては大本

軍としては補給を有するも三年以後の状況に就ては彼我の軍備特
 米國海軍か如何なる速度と形に於て擴張せらるゝや日本海軍勢
 の保持増進か如何に推移するか有形、無形の日本の國家總力は
 何なる推移を辿るか又世界情勢の動向は如何に推移するかとい
 極めて重要にして且豫察を許さざる問題があり之か戦局に重大
 る影響があることなれて開戦三年以後の戦況推移には遽に豫断を
 許さないものがあると思へられて居た

敵の航空並海軍を以てする「ゲリラ」戦に依る海上交通破壊に對
 しては概ね左の損害程度を以て防遏し得るものと考へ随つて攻
 地域の開闢等に伴ふ動力維持には概ね支障なきものと判断せられ
 て居た

(註) 海上交通の損害豫想の數字に關する資料は後に挿入する

2 動力に關する考察

緒戦に於て勝利の確算あり且爾後相當期間の持久作戰可能なる場

合日本國力に影響の多い重要物資の見通しの概要左の如く之に依り長期戦に應ずる戦力の維持は概ね可能であると觀察せられて居た

A 日本の船舶損耗が年間八十万吨乃至百万吨を以て推移し毎年の新造船約六十万吨を確保し得る場合國海軍の作戰に充當する船舶以外に民需用として常續的に最低三百万吨の船腹保有が可能である此の場合一部の物資を除き概ね一九四一年度に於ける日本政府の物資動員計畫の供給量を確保することか出来る

B 鋼材の年産目標を四百五十万吨以上とし内海軍配當百十万吨、陸軍配當八十万吨、新造船充當三十數万吨として戦時所要に應ずることか可能である

C 平時に於て泰、佛印等からの輸入を期待する米に就ては作戰に依り一時輸入量を減少すること當然なるも之に對しては代用食の使用に依つて補ひをつけ作戰一段落後に於ける輸入促進に依り緩和することか可能である

D 戦力保持上最大の願望を要する石油に關しては作戰に伴ひ南方資源を利用するものとして開戦第一年八十五万吨、第二年二百六十万吨、第三年五百三十万吨の供給可能と判斷せられ國內貯油八百四十万吨を加へ概ね自給態勢を保持すること可能であるか航空燃料に就ては消費狀況に依り第二年若くは第三年に於て若干の危険を感ずることなきを保し難い

E 南方の要地を短期間に領有したる場合石油以外の重要物資たる「につける」鐵、鋤「ボーキサイト」生「ゴム」、「カツサバルート」、糖密、「コブラ」「バーム」油「サイザル」玉蜀黍工業鹽、砂糖の取得數量は豊富であつて國力保持上十分と認められる

以上持久戦遂行に關する戰略的考察並國力に關する考察は共に絶對性を認められて居なかつたのであつて特に第三年以後の持久に

聯しては日本以外の全般情勢とも關聯して大なる浮動の要素あり
と考へられて居たのである。然ち日本政府並に御前部共に持久戦に關
する終末の確たる見透しなきに關らず開戦に決意せざるへからさ
るに至つたのは一九四一年秋頃に於ける情勢上止むを待す死中に
活を求むるの途を失はなければならなかつたか爲に外ならない

六 太平洋戦争と蘇支との關係に關する考察

日本が支那事變の途上蘇聯邦に對し大なる顧慮を要する狀況に於て
は新に南方に新作戦を發起することは日本の國力、戦力上無理なこ
とであるか一九四一年六月獨、蘇開戦に依り蘇軍が相當長期間極東
を顧ることの出来ない狀態に陥つたことは日本の南方作戦を可能な
らしめた戦理上の最も大なる要素である。然らば當時日本大本營は蘇
支の問題を如何に考へて居たであらうか

一九四一年夏蘇聯野戦軍は獨軍に依り多大の損害を蒙り極東蘇軍は
同年春より十一月頃に互に狙撃十三箇師團に相當する兵力、戦車約一

千三百輦、飛行機少くも一千三百機以上を歐蘇方面に西送し極東に於
ける戦力は相當低下しつゝあつたので有力なる關東軍が滿洲に微存
する限り蘇聯軍が積極的に攻勢を採ることは其の公算極めて少ない
ものと信ぜられて居た

併しなから米軍が蘇聯の承諾を得て極東蘇領の一部を北方よりの對
日攻勢據點として飛行基地乃至は潜水艦基地に利用することはあり
得ることとあり之が導火線となつて遂に日蘇開戦となる危險かない
と斷言することは出来なかつた。日本としては成るべく速かに
出来るならば滿洲方面に於ける作戦行動の困難な冬の間に南方作戦
を解決して翌年春には南方に於て確固たる不敗の戦勢を築へること
が必要であつた

而して爾後の持久戦の間に於ては彼我の情勢には各種の變動あるこ
とは當然であつて將來萬一蘇聯の攻勢を受ける場合に於ては支那に
於ける作戦行動を犠牲に供しても對支作戦兵力の主力と内地に在る

兵力の大部を擧げて北方に用ひし時、蘇聯を遂行しなければならぬ。此の場合、蘇聯作戦の進展は南方作戦の段階に依つても差異を生ずることと思はれるか何れにしても日本にとつて最も困難なる戦争となり、歐洲戦況が獨逸に有利ならざる限り日本は容易ならぬ状態に置かるゝものと考へられて居た。

次に支那事案に就ては一九三七年以來戦況に幾度轉かつたのであるが日本としては終始米英の支那に對する同情的態度に顧慮するを要する状況であつて時に作戦行動までも擧げせられ遂に米英が實質的に蘇聯を援助する段階に入つてからは援蘇「ルート」の遮断のみが事變解決を左右するものとさへ考へらるゝに至つた。右の次第であるから日本が蘇米英間戦争を起すこと自体最も有效なる援蘇「ルート」の遮断を實施することとなり、又何等の遠慮なく支那事案の處理に進ずることか出来るので南方作戦さへ順調に進展すれば支那事案そのものの解決に一方乃至數歩を進むることになる。

ものと考案せられたのである。

かくして支那作戦は日本が全く主動的地位を獲得して居たか爲に、英は遂行の爲に一時支那作戦を停頓せしむるやうなことがあつても結局支那の戦局を有利ならしむるものとなるであらう之を要する太平洋戦争の生起は蘇支問題との間に複雑なる表裏關係が存在し、ことは當然であるか支那作戦及蘇聯の状況は開戦時期に於てのならず將來の見送としても太平洋戦争さへ順調に進歩するならば、すしも絶對的の阻害抗力となるものではないと日本大本營は判断して居たのである。

